



学会ニュース

No.4

目次

- 第50回インナーゼミナール大会
- 実行副委員長 (T・T) 挨拶
- 実行副委員長 (M・T) 挨拶
- 各教室のグランプリ・準グランプリ
- 発表者 (T・M) インタビュー
- 発表者 (T・H) インタビュー
- 発表者 (S・D) インタビュー
- 発表者 (U・A) インタビュー
- 運営側の感想
- 編集後記

第50回インナーゼミナール大会

2020年12月12日に第50回インナーゼミナール大会が実施されました。今年度は40チームが参加されました。

インナーゼミナール大会（通称インゼミ）とは甲南大学経済学会が主催する行事であり、経済学会最大のイベントというべき経済学部生の研究発表会です。経済学部生はゼミで経済学について様々な視点から学ぶことができました。インナーゼミナール大会は学生がゼミで得た成果を多くの人々の前で発表することを目的に毎年開催し、この行事も今年で50回目を迎えました。各ゼミ、各チームが本日の発表のため、一生懸命に準備、練習をしてきました。

（第50回インナーゼミナール大会パンフレットより抜粋）

実行副委員長挨拶

今回、インナーゼミナール大会が第50回を迎えました。
この節目に運営として携われたことをとても嬉しく思います。
さて、今年は、新型コロナウイルスの影響により、授業が対面でできなくなったりする中で、ゼミのメンバーの方と話し合う時間が少ない中で、運営のスケジュールは変更しておりませんでした。ですので、参加者の皆様にご負担をおかけする形となり、大変申し訳なく思っております。ですが、私たちは、参加者の方の為に思って、様々なことを検討し、教員と議論を行ってきました。様々な葛藤の中ではありますが、大会の実施が実現したことをうれしく思います。これは、運営の方をはじめ、関係の方のご協力があってこそのものであると思います。運営の方、関係の方には、改めてお礼申し上げます。ありがとうございます。
これからも、経済学部のために、インナーゼミナール大会のために、様々なことを考え、インナーゼミナール大会を実施していきます。
これからの経済学会、インナーゼミナール大会を何卒宜しくお願い申し上げます。



3年生
T・T

実行副委員長挨拶

第50回インナーゼミナール大会を運営する『インナーゼミナール大会実行委員』の副委員長を務めました松下です。この度は、インナーゼミナール大会の運営に際してご協力を頂いた経済学会を始め、関係者各位のみなさまに心よりのお礼を申し上げます。

さてインナーゼミナール大会実行委員の副委員長を務める際に、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた運営をする必要があったという点に頭を抱えました。特に実施形態だけではなく、対面開催の規模を縮小する際に生じる弊害について考慮する点が多く、例年とは異なる業務であったと感じています。反面、自分たちで考えることが多く、副委員長としての責任を感じる場面も少なくなかったです。インナーゼミナール大会実行委員のメンバーを始めとした経済学会の協力なしには成功を収めることができなかつたと思います。

第50回は無事に終わることができましたが、今回の運営には多くの反省点や改善点が見られました。それらを踏まえて来年度のインナーゼミナール大会がより良いものになるよう来年度への引継ぎを丁寧に行っていきたいと思っております。



2回生
M・T

各教室のグランプリ・準グランプリ

A教室 (812教室)	ゼミ名	チーム名
グランプリ	高ゼミⅡ	MaaS and...
準グランプリ	柘植ゼミⅡ	Tチーム
B教室 (811教室)	ゼミ名	チーム名
グランプリ	寺尾ゼミⅡ	寺尾ゼミ17期生
準グランプリ	上島ゼミⅢ	CARY
D教室 (222教室)	ゼミ名	チーム名
グランプリ	林亮輔ゼミⅡ	Protect Humans
準グランプリ	上島ゼミⅡ	青椒肉絲
E教室 (821教室)	ゼミ名	チーム名
グランプリ	青木ゼミⅡ	海は青いな、大き稲
準グランプリ	岡田ゼミⅡ	チーム聖火ランナー
F教室 (823教室)	ゼミ名	チーム名
グランプリ	森ゼミⅡ	消費動向調査委員会
準グランプリ	高ゼミⅡ	令和留年組
G教室 (824教室)	ゼミ名	チーム名
グランプリ	青木ゼミⅡ	あおぱんだ
準グランプリ	石田ゼミⅡA	#結婚したい人と繋がりたい

発表者インタビュー (T・M)

どうしてこの研究テーマを選びましたか？

もともと家庭の幸福について関心を持っていたのですが、1年次の基礎ゼミⅡ時に現在のゼミの担当教員である村澤先生に研究について詳しく教えていただいたことで研究に対する興味関心が高まりました。

加えて世間で話題にもなった「コロナ離婚」などが、失業などの経済的な理由だけでなくリモートワークが増加したことによる夫婦間の軋轢や家事・育児の分担割合に関する不一致も離婚原因として挙げられるのではないかと考えました。そのため、夫婦の満足度を決定する要因をパネル重回帰分析で行うことにしました。

研究発表の中で最も伝えたかったことは何ですか？

今回の研究では先行研究の再現段階に留まっているので新たな発見などはあまりないのですが、家事・育児分担割合や収入が夫婦関係満足度の決定と相関関係にあることがわかりました。日本では共働き世帯が年々増加していく中で現在でも性別役割分業意識が根強く残っていますが、家事や育児の分担割合を改善することで妻の精神的、肉体的負担の軽減が可能であるということを伝えたかったです。

今回の経験から得られたものはありますか？

研究以前はデータの統合から回帰分析に至るまで基礎知識しか持ち合わせていませんでしたが、ゼミを通じてよりレベルの高い回帰分析に関する知識を得ることができました。特にパネルデータを使用した固定効果モデルの回帰分析を扱うのは初めての経験だったので様々な発見がありました。

インナーゼミナール大会で発表する際に工夫されたことはありますか？

回帰分析について、全く知らない人にも理解してもらえるように丁寧な説明を心掛けました。単回帰分析を行なったのちに重回帰分析を行うことで、なぜ重回帰分析を行うのかという理由についてもできるだけ分かりやすく表現しました。

インナーゼミナール大会で発表する際の研究で最も苦労したことは何ですか？

まずは20年分のパネルデータを一括にまとめ、そのデータをさらに使用する項目に分割して最後に統合するといった一連の作業にかなりの時間が費やされたことが苦労した点です。また、上記の工夫した点と重複しますが回帰分析を全く知らないような人がどうしたら理解できるのかという点についてもどの程度省略できるか、逆にどの程度詳しく話すべきかというような発表内容の取捨選択についてもかなり迷いました。

来年度のインナーゼミナール大会参加者に対してアドバイスはありますか？

より精度の高い研究に仕上げるためにも研究内容を早い段階で考え、十分に研究に費やす時間を取ることが大事だと思います。

発表後の率直な感想をお聞かせ下さい。

発表直前まで準備不足でバタバタしていましたが、最終的に満足のいく結果となったのでよかったです。まだ研究の初期段階なので、今回のインナーゼミナール大会での発表や講評なども参考にしながら研究をさらに進めていきたいと思っています。

発表者インタビュー (T・H)

どうしてこの研究テーマを選びましたか？

上島先生の研究テーマである労働経済学の本をゼミの中で何冊か取り上げてきました。その中でも、日本の雇用に関する本、コロナ禍についての本に興味を持ち、今までの就職活動とこれからの就職活動について研究してみたいと思ったからです。

研究発表の中で最も伝えたかったことは何ですか？

日本の就職活動は新卒一括採用のため、新卒で入社することがとても重要となり、企業も学生に着目します。そして、就活協定が廃止され、就職活動の早期化が進む中で、学生はコロナ禍の就職活動での変化にも対応しなければならないです。そのためには、学生は主体的に行動し、横のつながりや、情報を得ることを大切にしなければならないです。

今回の経験から得られたものはありますか？

研究テーマが自分自身にも関わることだったので、より深く学ぶことができてよかったと思います。

インナーゼミナール大会で発表する際に工夫されたことはありますか？

できるだけ、パワーポイントの文字を少なくして、自分の伝えたい重要なところだけをパワーポイントで目立つようにしました。

インナーゼミナール大会で発表する際の研究で最も苦労したことは何ですか？

10人という人数だったので、連携をとるのが難しかったです。特に、学校に来る回数も少ないので、集まる回数がどうしても少なくなっていました。
テーマごとに分かれて作業していたので、ほかのところが今何をしているかの状況がわかりにくかったです。

来年度のインナーゼミナール大会参加者に対してアドバイスはありますか？

早い段階から準備に取り組み、連携して研究したらいいと思います。
最初に、なぜこの研究をするのかを考えると最後の結論も考えやすくなると思います。

発表後の率直な感想をお聞かせ下さい。

とても緊張したけど、自分たちの発表をスムーズに終わることができて、達成感を感じています。

発表者インタビュー (S・D)

どうしてこの研究テーマを選びましたか？

最近のニュースにおいてSNSでの炎上が原因で亡くなる人や、事件が増えており、これを解決したいと考えました。また、SNSは私たちの生活から切り離せないものとなっており、研究する時期としてもよい時期だと考えました。

研究発表の中で最も伝えたかったことは何ですか？

炎上は仕組みを変えれば減らすことができるということです。炎上が起こっている中で、実際に誹謗中傷をしている人の割合は、非常に少なく仕組みを変えることで、誹謗中傷が減り、炎上件数が減るということを伝えたいです。

今回の経験から得られたものはありますか？

難しい課題であっても、粘り強く考え議論をすることで結果を出せるということや、努力の大切さを知ることができました。また、仲間がいることで一人では辛いことも乗り越えられるということも経験できました。

インナーゼミナール大会で発表する際に工夫されたことはありますか？

プレゼンテーションをする上で、相手の中にその話が残って、理解してもらうことが重要だと考えたので、ゆっくり話すことやスライドの見やすさを重要視しました。

インナーゼミナール大会で発表する際の研究で最も苦労したことは何ですか？

SNSを使用する上で、利用者にとってのメリット・デメリットは何なのか、事業者にとってのメリット・デメリットは何なのかを考え、そこから炎上を減らす解決策を考え、どの方法が利用者・事業者の両者にとって最も合理的なのかを考えたことです。

来年度のインナーゼミナール大会参加者に対してアドバイスはありますか？

研究をするときに大量の論文を読んだり、分析をすると思います。そこで、心が折れそうになることも多々あると思いますが、ゼミのメンバーと協力し、諦めなければ結果はついてくるので頑張ってください。

発表後の率直な感想をお聞かせ下さい。

グランプリを取ることができたということと、インナーゼミナール大会が終わり自分の役目が一段落したことで安心しています。インナーゼミナール大会で経験したことをこれからも活かし、残りの大学生活を過ごしたいです。

発表者インタビュー（U・A）

どうしてこの研究テーマを選びましたか？

ソーシャルメディアの利用が増え、SNS上で特定の個人や企業などに多数の批判や誹謗中傷が行われる炎上が増加傾向にあり社会問題となっています。今後もさらなるソーシャルメディアの発達・普及が予測されるため、SNSにおける炎上問題は増加するのではないかと考えました。そこで私たちは誹謗中傷を抑制するために、リテラシー教育の在り方について研究しようと思いました。

研究発表の中で最も伝えたかったことは何ですか？

教育内容を充実化させることです。実際に高校生601名にリテラシー教育の現状把握に関するアンケートをとらせていただきました。そのアンケートをクロス分析した結果、リテラシー教育を受けていない人ほど炎上の原因になりやすい行動をしていることが分かりました。また、研究内容より発言時の言葉選びに関する教育の強化は誹謗中傷の抑制につながるということを伝えたいです。

今回の経験から得られたものはありますか？

アンケート調査は私たちの班は初めて経験することだったので、作り上げるまでに時間がかかりましたが、ゼミ生の意見も取り入れながら完成させることができました。アンケートを作成するにあたり、それぞれの設問の目的を明確にすることや回答者がスムーズに答えられるように流れを工夫することなど知識を身に付けることが出来ました。

インナーゼミナール大会で発表する際に工夫されたことはありますか？

今回クロス分析を用いての発表であったため、理解してもらえるようにスライドに分かりやすくまとめ丁寧の説明することを意識しました。また、早口にならないようにゆっくり話すことを心がけました。

インナーゼミナール大会で発表する際の研究で最も苦労したことは何ですか？

アンケート集計後、どれとどれを組み合わせれば結果がでてくるのかという点については何度も話し合いをしたため苦労しました。また、今年はなかなか対面で話し合うということができずZoomであったため、進行が遅れてしまいました。

来年度のインナーゼミナール大会参加者に対してアドバイスはありますか？

研究テーマを早い段階から考えて、研究に取り掛かれれば深くまで追求することが出来ると思います。

発表後の率直な感想をお聞かせ下さい。

インナーゼミナール大会直前まで準備に取り掛かっていましたが、無事に発表することができ最終的にグランプリをとることができて良かったです。

運営側の感想

12月12日に第50回インナーゼミナル大会が開催されました。節目の年に運営側として携われることに嬉しく思います。今年は例年と違う形での開催となりましたが、大きなトラブルもなく、終えたことは良かったと思います。

先輩方の発表を聞いて去年とは違う感情がありました。去年は、ただ単に凄いとしか思えていませんでしたが、今年は来年このような研究、発表を自分でしなくてはならないという不安と焦りが芽生えました。また、今年は前期がすべてオンライン授業となり、集まるのが困難な中で、研究発表が出来るという事に感動を覚えました。

そして、今後も成功できるように、この伝統のある行事をしっかりと後輩たちに引き継いでいきたいと思っています。



Y.R

第50回目の節目である今回は一部Zoomを用いたうえで学内立ち入り人数も大幅に削減するという異例のインゼミで、昨年通りの様式が通用せず苦勞する場面が多々ありました。私は3回生の先輩方についていくので精一杯でしたが、来年はこの立場に立つのだという意識をもって臨みました。

当日は教室の司会補佐・誘導をさせていただきましたが、そこで一部の発表を生で拝見できたことは、たいへん来年の自身の発表の参考になりました。

インゼミの運営という立場を2年経験したことで、50年前から連綿と受け継がれてきた大会の歴史やインゼミに懸ける発表者の思いを間近で感じることができました。51回目のインゼミも大成功が収められるよう、今回の経験を大きな糧にしていきたいと思っております。



H.M

初めてインナーゼミナール大会を経験して、様々なことを経験しました。私は、インゼミ実行委員のスタッフとして、10月頃から運営に参加しました。私自身何かのイベントの運営をすることが初めてだったうえに、経済学会の活動に参加し始めて間もないころだったため、不安なことしかない状態でした。しかし、先輩方がやるべきことなどについて1から教えてくださり、状況の把握をすることができました。当日にトラブルが起こるなどアクシデントも多々ありましたが、無事に終了することができて良かったです。来年は、現一年生が中心となって運営していくので、今回の反省を生かしていきたいと思います。



M.Y

編集後記

今年は新型コロナウイルス感染症の影響により開催されるまでに例年以上の苦労があったと思います。しかし、その影響を感じさせないくらい先輩方の努力がインタビューを通して垣間見れました。

取材にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。最後までお読みいただきありがとうございました。今後も経済学会並びにインナーゼミナール大会を暖かく見守っていただけると嬉しく思います。

編集担当 前田紗英